

『新規役員の紹介』

常務 大貫秋夫

佐野厚生連の第65回通常総会（6月26日）において任期満了に伴う理事・監事候補者が承認され、新役員が下記の通り選出されました。

- 代表理事会長 時崎 栄 (JA佐野理事)
- 副会長理事 大芦 宏 (JA佐野組合長)
- 常務理事 大貫 秋夫 (学識経験者)
- 理 事 木村 弘一 (JA佐野専務理事)
- 理 事 石橋 孝雄 (JA足利組合長)
- 代表監事 神永 信男 (JA下野組合長)
- 監 事 野部 利平 (JA佐野常務理事)

本年度は2年に一度の医療費改訂の年でありした。平成26年度は診療報酬0.1%の改定となっておりますが、消費税8%の引上げの影響で実質△1.26%となるため厳しい収支となることが予想されます。当病院においてはここ数年において患者数が入院、外来ともに減少傾向が認められます。また、6月にオープンした特別養護老人ホーム「きんもくせい」においても開設したばかりで充足するにも時が必要かと思われま。このような状況の中ではありますが役職員一丸となり「安心・安全の医療体制を守り地域中核病院」として組合員並びに地域住民の健康増進に邁進致しますのでご理解ご協力をお願い申し上げます。



前列左から
神永代表監事・大芦副会長・時崎会長・石橋理事
野部監事・奥澤院長・木村理事・大貫常務



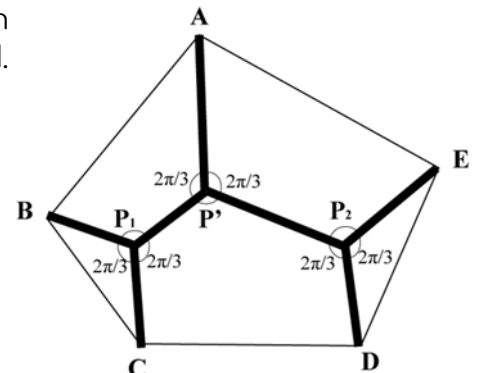
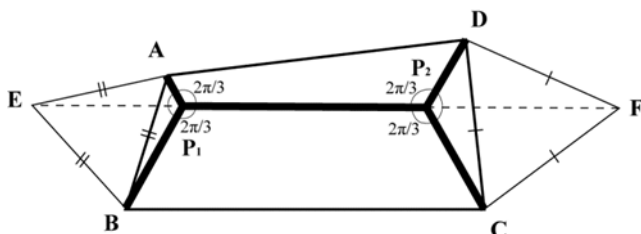
『数学的アプローチ』

脳外科部長 永井 睦

脳の手術を行う際、頭蓋骨の下にある脳を覆っている硬膜という丈夫でしなやかな膜を切開（開窓といいます）してその下の脳を露出させる必要があります。そして脳内の操作が終わった後はこの硬膜を元あった位置に戻して縫合しなければなりません。ところがこの縫合操作は単純作業で時間がかかり、長時間の手術の後半に疲弊した術者を非常に煩わせます。私は元来面倒くさがり屋なもので、この煩わしい縫合操作をなるべく少なくできる方法はないだろうかと常に考えていました。そして昨年、究極の切開デザインを発見したのでここに紹介します。この切開方法は脳外科だけでなく膜を扱うあらゆる外科手術に応用できるものです。

硬膜を四角形ABCDに開窓する場合と五角形ABCDEに開窓する場合の切開デザイン（太実線）を示します。このデザインは任意の四角形、五角形においてただ一つ決まります。興味のある方は以下の論文を参照してください。宣伝をしてしまいました、、、。

Planar geometrical analysis for design of the shortest incision to open the dura mater: technical note. Mutsumi Nagai et al. Neurologica medico-chirurgica 53: 61-64, 2013



『特別養護老人ホーム「きんもくせい」開設』

きんもくせい施設長 飯島 博

佐野厚生農業協同組合連合会では、6月1日に、特別養護老人ホーム「きんもくせい」を開設いたしました。全室個室のユニット型で定員は50名、ショートステイは10名となります。敷地面積は5,619.38㎡、建築面積は2,241.92㎡（延床面積3,788.17㎡）、居室面積は15.84㎡の鉄筋コンクリート造り地上2階建てです。広い中庭やバルコニーは開放的な設計になっています。また1階には地域の方が活用いただけるように地域交流室を設けました。



平成26年5月31日 竣工式

建設用地は旧病院跡地（平成15年に移転）で、昭和12年に設立された病院発祥の地であるこの地に地域の皆様に支えられ、本年で77年の歳月を迎えようとしております。この長き日に地域医療に対して真摯に取り組んでまいりましたが、今後の急速な高齢化に対応すべく、今までの医療で培われた経験を生かし、介護福祉へも力を注ぎ地域住民へ貢献すべく今回の開設の運びとなりました。

名称の「きんもくせい」は、地域の皆様に支えられてきたこの地で、しっかりと根を張り、葉を広げ、花を咲かせてきた当施設のシンボル、きんもくせいから命名しました。花言葉でもある「謙虚」、「真実の愛」を一人ひとりに届け、論語の一節である「一言にして終身行うは恕＝思いやり」を理念として、先人たちが築き上げてきた思いをしっかりと継承して、地域の皆様に信頼され、慕われるホームへと歩んでまいりたいと思っています。



夏休み

『栄養サポートチーム』

NST専従 管理栄養士 女屋 淳一

当院では、栄養サポートチーム（Nutrition Support Team 略してNST）と呼ばれるチームがあります。

患者さまの栄養状態の改善に努めることを目的に、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士など多職種が協力して、より安全かつ有効な栄養療法を行うための医療チームのことであります。

「腹が減っては戦ができぬ」とは言いますが、病と闘うこともまた同じことで栄養管理の重要性が注目されるようになってきました。考えてみれば当たり前のことですが、どんな薬を使っても生命維持の源であるエネルギー摂取ができなければ病に打ち勝つことはできません。昨今、そうした考え方が浸透し栄養管理を専門とした栄養サポートチームを立ち上げる病院も多くなってきました。

当院でもNSTが発足され、平成25年度からはNST加算を頂けるようになりました。入院中の低栄養状態、またその可能性がある患者様、食事が食べられない患者様、床ずれのある患者様などを対象に、栄養面から主治医をサポートし、栄養状態の維持・改善や創傷の早期治癒などの効果を目指し、週1回のミーティング・回診を実施しております。

一口に栄養管理といっても、食事が取れない理由は病気によって様々です。

食べ物を口に運ぶことができない人から、うまく飲み込みができない人、栄養吸収ができない人など多岐にわたります。ひとりひとりの患者さんに合わせた細やかな栄養管理をすることはマンパワーが必要なだけでなく、医療人としてのモチベーションを高く保たなければなりません。まだまだできたばかりのチームで、運営状況につきましても手探り状態ではありますが、チーム一丸となって患者様の治療の支えとなるよう努めてまいります。また職員全体に向け、栄養への関心を高められるように活動していきたいと考えております。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



- 広報委員
- ・奥澤星二郎(医師)
 - ・安部正彦(事務)
 - ・高橋忠幸(事務)
 - ・河邊正浩(事務)
 - ・山脇富士野(看護)
 - ・羽角安夫(検査)

編集後記

今年の梅雨は地域集中型で、佐野足利地域でも床下浸水、山間部では土砂災害の警報も発令されました。世界ではサッカーのブラジル大会が開催されアジア地区はすべて一次リーグ敗退となり、欧州、アフリカ、南米との差が歴然と示された感がします。スポーツ競技での勝敗はさわやかであります。世界各地では今も紛争地域がありいつも弱者は辛い思いをしております。そして、歴史はいつも勝者側より語れます。敗戦を経験した国でまた新たな動き、集団的自衛権で決して不幸を生む国を作つてはいけません。悲しむ子供たちのあふれる国にしてはイケないと思う。不野新聞、雷鳴抄より一部抜粋）梅雨明け夏近づけば先の大戦いずこかなの心境となります。ヤヒ